

支部長あいさつ

会員増強にご協力を

支部長 大和久 一吉

活性化のため何か新しい事業を…、と意気込みながら就任して早3年。交流会という大イベントを担当したこともあり、現状の事業を滞りないよう運営していくことが精一杯でしたが、3支部合同のボウリング大会や何年振りかの講習会を何とか開催することができました。とはいえ、講習会においては出席者数が期待していた数に及ばず、少々索漠感を覚えたことも事実です。現在当支部の会員数は79名。会員数130名を超えていた頃もあり、そのことも多少影響しているかもしれません。各々の事情で退会されることはやむを得ませんが、入会者を獲得できずに退会が相継げば会員数が減少するのは当たり前のこと。千葉県在籍建築士約40,000名中会員は約2,000人と、入会率は約5%しかなく、会員増強は千葉県建築士会全体の課題となっています。

昨年、入会促進方法や長期会員継続のための方策等を協議する『会員拡大会議』というものが本部に発足されました。会員・非会員の差別化や入会金の軽減、講習会・勉強会等の充実、受験産業や行政部会への働きかけなど様々な手法が検討され、この度“会員拡大パンフレット”が各支部に100部ずつ配布されました。

会議の中で、受講期間中の方や準会員へメリットや活動内容をPRすることが特に有効、という話がありましたので、建築士を志す知人や近親の方がおりましたら、パンフレット配布やPRにご協力頂ければ幸いと存じます。

会員誘引のための対外的PR事業が、今後当支部でも開催されることを期待しております。

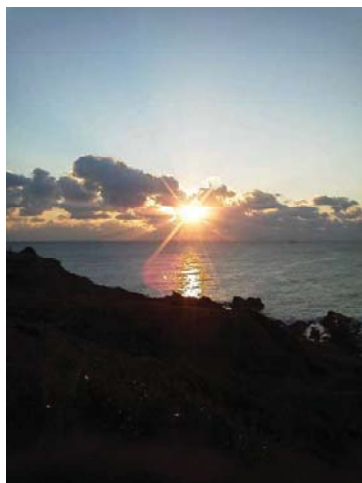


PHOTO: 大和久支部長

犬吠埼に昇る初日の出2016

なぜぞ: 蚊に刺されやすそうなアニメヒーローはだぁ〜れだ?? 難易度★★★★☆

答えは一番最後に

行事参加報告4 まちなみウォッチングinアートいちほら2015

大和久 一吉

地図で測ると南端から北端の直線距離が約35.5kmもある市原市。石油コンビナートが立ち並び活力を彷彿とさせる工業地帯という表の顔持つ半面、^{ひとげ}人気も疎らな山間部あり。その広さゆえ、同じ市内でも文化の異なる地域が発生するのは必然?のようですが、過疎地の活性化や町おこしは当市のみならず全国各地で抱えている課題でしょう。

農村や山林で囲まれた市原南部地区。生徒数減少により廃校となった3件の校舎(内田未来^ま校・月出小学校・里見小学校)と古民家等を巡回。校舎や古民家を、美術館や博物館あるいはコミュニティ施設として再生した「アートいちほら」と称する取り組みには甚く感銘し、深く印象に残りました。実際に発起するのは容易ではないかもしれませんが、他の市町村でも参考になるのではないのでしょうか。



つままい美術館



ワクリザ?

今後の行事予定

★平成27年度下半期～平成28年度上半期★

- 1月22日(金) 建築士会長生支部新年賀詞交歓会
- 5月 建築士会長生支部総会
- 平成28年6月16日(木)～18日(土) 建築士会関東甲信越ブロック協議会 山梨大会

※その他行事を行う予定となっております。日時等決定しましたらご案内を申し上げます。
長生支部会員の皆様、どうぞふるってご参加の程、宜しく願い申し上げます。

建築士会会費納入のお願い

平成27年度も残りわずかと来期、平成28年度の建築士会会費の納入時期(振込)が近づいてまいりました。

円滑な支部運営、活動の為、会員皆様からのご協力をお願い申し上げます。
振込時期は3月頃ですが詳しくは追って葉書にてご連絡申し上げます。

◆スポーツ観戦大好きな人募集!

野球!サッカー!テニス!ゴルフ!..... etc
 去年のラグビーワールドカップでは素晴らしい感動がありました。間もなくたくさんのスポーツが新シーズンを向かえます。
 好きなチーム、好きな選手のプロのプレーを間近に観に行きませんか!?



ラグビー日本代表 桜ジャパン

◆ゴルフ大好きな人募集!

仲間内でゴルフを始める方達が増えてきました。定期的に有志による4~5組程度のゴルフコンペを開催しています。
 初心者から上級者、老若男女問わずみんなで楽しんでいます。今年の建築士会親睦ゴルフ大会は10月に変更となりました。それまでみっちり練習をして腕試しに参加されてみては!?!是非私もという方、
WELCOMEですよ!



有志コンペ



ウェルカメ!

◆アウトドア大好きな人募集

ウォーキング、サイクリング、ハイキング、キャンプ B B Q、山登り..... etc
 とにかく体を動かす事が好きな方!
 日頃の運動不足を感じている方!
 共に爽快な汗を流しませんか!!
 大和久支部長はアウトドアなんでもござれですよ!



100km歩く大和久支部長 スゴッ!!

※お問い合わせは大和久支部長まで m(_)_m

編集後記

あけましておめでとうございます。

始まったばかりだと思っていた平成27年もあっという間に終わりもう新年。

平成28年の今年はいったいどんな年になるのでしょうか.....

皆様と共に楽しく笑いの多い一年になることを祈願いたします。

Lee.Koma

支部長からのなぞなぞ答え:ガッチャマン-科学忍者隊-蚊が食う忍者隊



建築士 ちょうせい 支部だより

第24号

平成28年 1月号

(2016年)

千葉県建築士会長生支部

☆目次☆

支部長あいさつ	P1
建築士の日	P2
改正建築基準法講習会	P3
支部交流会松戸大会	P4、5
まちなみウォッチング	P6
今後の行事予定	P6
建築士会会費納入のお願い	P6
おさそい	P7



平成27年度建築士会支部交流会松戸大会参加の長生支部



改正建築基準法講習会風景

平成 27 年 10 月 27 日 茂原市役所にて改正建築基準法講習会が開催されました。

内容は「改正建築基準法説明と建築士いえづくりの会」

最初の講習は「改正基準法」。長生土木事務所建築宅地課課長、白川氏により始まりました。難しい基準法の話のわかりやすく説明していただきました。

- ・平成 28 年の 2 月には建築物の定期報告が強化される予定。
- ・構造計算の適合判定制度の見直し。一部、民間の確認審査機関でも審査できるようになっている。

規模に関わらず、ルート 2 は本庁審査となっております。

- ・容積率制限の合理化。エレベーターの昇降路の部分の床面積が延べ床面積に参入しない。住宅の 地下室面積を延べ床面積に参入しない特例を、老人ホーム等についても適用する。
- ・確認申請 第四面 5.耐火建築物等の説明。
- ・千葉県内に建築着工の状況。
新築着工数は前年同期の 2.1% 減、しかし着工面積は 12.7% 増。
構造偽装により、導入された仮預かり審査制度の期間平成 19 年 6 月 20 日～平成 22 年 8 月 31 日までの建築着工の落ち込みをグラフで説明していただきました。

後半は住宅保証機構の垂氏による建築士いえづくりの会とまもりすまい保険の説明入会のメリットを詳しく話していただきました。

- ・建築士会会員の有志による設立された会である。
- ・木と住まいの研究協会からの情報提供や火災保険の割引サービス。
- ・地盤保険審査制度の地盤調査+地盤保険の会員価格で利用可能
- ・まもりすまい延長保険
点検とメンテナンス工事が必要。

建築士いえづくりの会の入会・質問等は建築士会長生支部、大倉副支部長まで。



住宅保証機構 垂氏による講習風景

【その壱 A コース】

今回の支部交流会にてパスタブリッジに挑戦しました。

パスタブリッジでは、調理前のパスタをグルーガンで接着しながら橋を作り、その上加重を掛けてどれくらい重さまで崩壊しないかを競います。

気になる方はインターネットで「パスタブリッジ」と検索してみてください。たくさんパスタブリッジが出てきます。

今回は支部ごとにグループに分かれ、パスタブリッジを作成、その強度を競いました。パスタブリッジを作る過程で、どこが弱いのか、どう補強をすれば弱点を補強できるかなどをグループの仲間と検討しながら進める時間は、学生時代のグループ課題のようで楽しく過ごすことができました。最後は、各支部のパスタブリッジの強度を競うのですが、意外に加重に強かったり、逆に弱かったりと、参加者全員が驚き、楽しみながら構造についても学ぶことができました。長生支部では最もパスタを使わない軽い形で挑戦し、他支部の注目を集めました。上位に入ることができませんでしたが、もし次の機会があるのなら今回の経験を生かし、より強く美しいパスタブリッジをつくることができればと思います。

【その貳 C コース】戸定邸 矢切の渡しコースに参加して～“和のなごみと初恋にふれる” 松本 雅明

千葉県建築士会支部交流会に初参加。森のホール 2 1 の中に入ったのも我が人生末端に至って初めての経験であった。冥途への（まだ早いかな？）土産話がまた一つ加わった満足な一日であった。ただひとつ（本来の交流である）夜の部に参加できなかったのが心残りであった。帰りは独り寂しく通称オケラ列車と呼ばれているらしい武蔵野線で帰宅だったのであった。

あっ！肝心の交流会について書かず 5 行でいきなり「参加し無事帰った。」と、なってしまった。これじゃあ長生支部の理事の方々に怒られてしまう。

では本題に…当日は長生支部理事の車の後部座席にて殿様気分松戸市へ向かった。結構早めに到着してしまった。少し眠たい。開会…会長挨拶、松戸支部長挨拶後に松戸市、戸定歴史博物館館長の齊藤洋一氏による講演を聴いた。戸定邸は水戸藩最後の藩主徳川昭武の邸宅であって、建物の歴屋や間取りの不思議なことなどの話を伺いました。とても劇的でありました。

午後の部の『戸定邸と矢切の渡しコース』へは（路線バスの）貸切りで移動した。松戸支部のご配慮で参加者全員が座れましたが幹事の方々は吊り革でした。戸定邸内は美しいボランティアガイドに導かれての見学となった。各部屋の欄間の美しさが目を引いた。さらに国の名勝となった庭園は芝の美しさと囲む木々で落ち着いていて偶々美女二人が歩いており素敵でした。庭越しには嘗て富士山が見えたのですが、遠く真ん中に高層建築ができて富嶽の景色が遮られてしまっていた。全く残念である。



戸定邸の中庭を望む

建築士は景観に無頓着であってはならないと、大いに(猿以上に)反省しつつ隣の松雲亭で珈琲を呑みながら、開催中の甲冑展(紙製)のボランティアから甲冑造り等の話を伺った。珈琲の味…勿論、美味しかったですよ。敷地内の歴史館では齊藤館長から、最近発見の謎深い展示書状の説明を受け、これもとても劇的でありました。皆さん是非足を運びご覧になって下さい。

次にバスで葛飾区側の矢切の渡しへ移動。何故帝釈天側から渡るの、と幹事の方へ疑問を投げると松戸支部の女性幹事さん(お名前を失念…御免なさい)が歌詞にある通り「柴又捨てて松戸へ恋に走るからです」とキッパリ。とても説得力がありました。渡船を親子で経営している息子船頭さんの櫂捌きで水深6mの江戸川の流れをわけてゆったりと野菊の墓方面へ渡り帰ったのであります。

ということで、無事に帰れたわけです。松戸支部の皆さんに感謝。 合掌……

【その式 D コース】21世紀の森コース

大和久 一吉

都心に程近く街並みは都会そのもの、というイメージをしていた松戸。駅周辺のイメージとは裏腹に、見学地の自然観音舎とその周辺には広大な湿地帯や森林など、豊富な自然環境が保護されています。また、隣接する松戸市立博物館では、堅穴式住居や昭和30～40年頃の常盤平岡地復元が展示され、当地の住生活文化の歴史を知ることができました。これらの施設から、住環境と自然との密接な関係重視の施策を推進した、松戸市の取り組みが窺われました。

【その式 E コース】小金宿本土寺コース

加藤 昌巳

今回、支部交流会の松戸大会に参加し、「小金宿本土寺コース」に第一希望で参加しました。秋の深まりを感じる風の中、由緒あるお寺や歴史を感じる街を散策しながら寺巡りをしました。最初に向かったのは、「本土寺」別名あじさい寺です。色付き始めたもみじやイチョウの木々の中を市民ボランティアの方に案内され、歴史の流れやドラマを感じました。本堂や五十塔、仁王門は丹色の存在感溢れる色と青緑色のきれいな銅板葺きの屋根が印象的で、寺院建築の優雅さ、美しさにあらためて感動しました。あじさいや桜の時期にぜひ足を運びたいものです。本土寺から参道を抜け、旧水戸街道を通り小金宿の町並みを散策しながら「東漸寺」へ向かいました。小金宿を中心とする小金地域は、旧水戸街道の4番目の宿場町として栄え、日本の歴史の流れとともに変化し、風情ある佇まいを残しながらも発展し続ける街並みでした。

「東漸寺」は今から約520有余年前の文明13年(1481年)に開設され、その役60年後に現在地に移された浄土宗のお寺です。もみじや四季折々の自然あふれる長い参道を「総門」、「山門」、「中雀門」をくぐり、たどり着いた境内には樹齢300年を誇るしだれ桜や鶴亀の松等の古木や巨木は見事です。観音堂や鐘楼の日本瓦の美しさ、本堂の銅板葺きの屋根、須弥壇の金箔と漆塗りは、独特の質感に長い年月をかけ確立し、受け継がれてきた伝統と技術をあらためて「素晴らしい」と感じました。

人生初となる写経も経験でき、他の支部の方々と一緒に千葉県古き良き歴史を感じた素晴らしい一日でした。



矢切の渡し 松本氏&大倉副支部長

平成27年7月18日、千葉市にある「きぼーる」にて開催されました。1階アトリウムには支部の趣向を凝らした展示物が幾つかあり支部交流会を控えて松戸支部は元気一杯でした。傍らには「建築士と子供達。積木で遊ぼう!」というコーナーがあり木材の切り落としを加工した積木を子供達が夢中で組み立てている様子は随分と微笑ましい光景でした。

記念講演の始まる時間が近づき13階にある講演会場へ。記念講演の講師は(公社)日本建築士会連合会会長、三井戸清典氏。

主題「住宅を中心とした復興と住まい作りとまちづくり」

～生業の生態系の保全、木造化と木質化～



つみきにふれあう家族

「日本の国土の2/3は森林です。国土を10cm四方とすれば森林は8.2cm四方になります。」このような冒頭から始まり地域性や景観に十分配慮された町家、商家、そして大規模な木造建築等の解説があり、2004年10月23日の中越地震による被災地の中で全村避難をした長岡市の山古志村(14の集落)の復興・再建について続けられました。震災前の美しい集落の再現、山古志らしい外観を継承した住宅、これらが主題となったようです。さらには復興住宅が完成した後のことも十分に考慮されたことが講師の言葉にありました。震災の日から2006年10月～11月のモデル住宅の見学会までの期間、委員会を発足しました。成果の中間報告が2005年11月にあり、2006年4月頃までに建築、設計、建材メーカー等の支援組織の体制づくりが行われたようです。

外部、内部の両組織共、大変な苦勞があったようです。これらの中で特に注目されるのは「未完成の家造り」。増築が可能な成長をする家が目的ということでした。地域生業の生態系の保存、仕事の継続、後継者の育成、できた住宅の維持管理をしていく為だということでした。復興の名の下に外部組織が力押しに住宅を建ててしまうのであれば山古志村は消滅してしまい被害は永遠に続いてしまうのではないかと思います。そして地元の方々の2年を越える忍耐力にも頭が下がる思いです。

ゴム毬の様な弾力性、バランスのとれた協調性、これらに富んだ組織は人が創り出したもの。この事が身に沁みだ講演でした。

